

② 授業力向上講座

直面する教育課題や子どもたちの変化に対応した授業づくりと教員の指導力の向上を図るため、各教科及び領域において実績のある教員や大学教員等を招聘し研修講座を実施した。今年度は、本市教育の重点施策である「ことばと読書を大切に教育」および全教科における言語活動の充実をめざした講座として実施した。

第1回 平成27年8月3日(月)

講師 学校指導課 吉本 潤 指導主事
笹原小学校教諭 福本 拓耶 氏
池尻小学校教諭 門間 祐二 氏

演題 「NIEって何? ～すぐにできるNIE～」

【内容】

- 1 NIEとは
 - ・NIE (Newspaper in Education) とは何か
 - ・学習指導要領上のポイント (言語活動の充実)
- 2 実践事例紹介 1
 - ・同じ新聞記事を各教科、各学年 (校種) で用いる場合の実践例紹介
- 3 ワーク
 - ①各自で興味を引く見出しを切り取る
 - ②グループで一番興味を引く見出しを選ぶ
 - ③全体で一番興味を引く見出しを選ぶ
 - ④選ばれた見出しの記事を紹介する
- 4 実践事例紹介 2
 - ・新聞でことば集め
- 5 まとめ



第2回 平成27年8月6日(木)

講師 立命館小学校国語教育アドバイザー 岩下 修 氏
演題 「思考力を高める作文指導」

【内容】

作文指導法の3つの型

- 1 説明的作文
 - ①はじめ
 - ②なか1 (エピソード1)
 - ③なか2 (エピソード2)
 - ④まとめ (共通項、気づき)
- 2 物語風作文
 - ①起 (話の始まり)
 - ②承 (話の設定)
 - ③転 (変化・山場)
 - ④結 (話の終わり)
- 3 小論文風作文
 - 「たしかに、しかし、なぜなら、このように」の型を使う
 - ・物語についての評論文を書こう
 - Aコース
 - 松井さんの登場する「草の色は空の色」の作品から2点選び意見を書く



「白いぼうし」「山ねこおことわり」「すずかげ3丁目」その他

Bコース

戦争のことが出てくる「一つの花」と「すずかげ3丁目」の二つの作品を比べ、どちらが素晴らしいのか、意見を書く

第3回 平成27年8月19日(水)

講師 元京都女子大学教授 吉永 幸司 氏

演題 「考える力を育てるノート指導」

- 1 考える力を育てる「京女式ノート指導」の背景
 - ・ノート指導が大事だった
 - ・ノート指導で子どもが変わった
 - ・ノート指導で授業が充実した
- 2 「京女式ノート指導」
 - ・キーワードは丁寧
 - ・京女式ノート検定
- 3 合い言葉である「国語力は人間力」とノート指導
 - ・言葉で考える子を育てる
 - ・学校国語の考えへ広がる
- 4 ノート指導は「板書」から
 - ・板書を写す
 - ・板書とノートを一体に考える
 - ・板書をイメージしてノートをつくる
- 5 ノート指導で大事にすること
 - ・記録としてのノートの役割
 - ・考える場としてのノートの役割
 - ・交流の場を生かしたノートの役割
 - ・学習の成果や学習評価を記録するノートの役割
 - ・学習力を育てるノートの役割
- 6 ノート指導のポイント
 - ・広げる…丁寧なノート・美しいノートに学び合う
 - ・深める…思考力の育成ということを目的にノートを工夫する
 - ・支える…学習意欲を高めるためにノートを活用する
- 7 ノート指導は「時間がかかる」「個人差がでる」「授業が進まない」
 - ・教材研究と板書研究を一体とらえる
 - ・ノートの目標を決める
 - ・書く時間を確保する
 - ・家庭との連携



第4回 平成27年8月20日(木)

講師 神戸大学大学院准教授 岡部 恭幸 氏

演題 「活動に培う確かなわかり —算数・数学的活動を軸にした校種間連携—」

- 1 授業改善のためのキーワード
 - 算数・数学的活動
 - 習得・活用・探求
 - ・習得・活用・探求のキーワードは必ず3つセットで使われる。
 - ・習得と探求を活用でつなぐことが必要である。適切な活動が主体的・協同的に行われたときに確かな理解につながる
 - 言語活動
 - ・算数科の言語活動とは
数・式・図・表・グラフ等を含む



教科によって言語が違う
操作的表現
記号的表現
言語的表現

○グループワーク

- ・ 7進法の計算をしよう

① $53 - 26 = 24$

② $502 - 256 = 213$

2 アクティブ・ラーニングについて

- ・ 学修者が能動的に学修する
- ・ 主体的な学びとは何かを要約すると、学んだ知識を主体的につなげ展開させる力を育成する

第5回 平成27年8月24日(月)

講師 関西大学教授 黒上 晴夫 氏

演題 「シンキングツール（思考ツール）を生かした協働学習について」

【内容】

- 1 シンキングルール（思考ツール）
 - ・ 考えを可視化する
 - ・ 考え方を図形がアフォード（導く）
 - ・ 考えたことは言語活動として
- 2 グループワーク
 - ① フィッシュボーンで分析
 - ・ みんな仲良く楽しい交流会について考える
 - ② Yチャートで分析
 - ・ フランスキーの絵を見て感じたことを話し合う
- 3 「考える」ことのサポート
 - ① 何をすべきかのイメージ→考える方向性を見通す
 - ② 内部・外部の情報を表す形を示す→考える材料を揃える
 - ③ 組み立てのイメージと手順→材料を組み立てる
 - ④ フィードバック→考えた結果を表す
- 4 シンキングツールの効果
 - ・ 話し合いがスムーズになる・活性化
 - ・ 人の頭のリソースを借りやすい
 - ・ 考えの流れが可視化できる（子ども/教師にとって）
 - ・ 内面化（要らなくなる）される
 - ・ 記録をとることで違いが見える
- 5 結果としての「思考」に焦点化
 - ・ どれかの思考スキルに焦点をあてる
 - ・ 思考スキルを用いる課題を設ける
 - ・ アイデアを処理する方法を示す



第6回 平成27年11月12日(木)

講師 伊丹市教育委員・神戸松蔭女子学院大学教授 秋田 久子 氏

演題 「進めよう、アクティブ・ラーニング –手法としてのNIE–」

【内容】

- 1 アクティブ・ラーニングって何のこと
 - ・「何を教えるのか」→「どのように学ぶか」
 - ・学びの質や深まりを重視する。課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）や、そのための指導の方法 等を充実させていく（2014.11中教審諮問）
- 2 アクティブ・ラーニング推進の背景
 - ・グローバル化する世界の中で日本の平和と豊かさを維持していくため
 - ・2015年の日本を見据えた教育
- 3 NIEはなぜ必要か
 - ・子どもの説得基盤は、「みんな」＝周囲の2～3人
 - ・大人が思う「みんな」＝世間、社会（その具体が新聞）
 - ・新聞を通じて、世界や社会の考え方や常識など、現状認識を蓄積することが必要になる
- 4 アクティブ・ラーニングを進める要点と流れは
 - ・計画→時間設定→目標設定→事前の指示→学習活動→振り返り活動→評価
- 5 実践ワーク
 - ・新聞を使って、授業計画をつくろう
- 6 アクティブ・ラーニングを進める際の留意点
 - ・頑張りすぎない（従来の知識伝達型をベースに時折差し込む）
 - ・ファシリテーターに徹する（説明は丁寧に繰り返すが、指示はしない）
 - ・否定語を使わない（「学び」は経過と人の発表を聞く中にある）
 - ・アクティブ・ラーニング型授業を3回は実施する（継続は力なり）

